

# 保育課程論に対する学生の理解に与える要因（1）

## A Study on Some Factors of Students' Understandings of Curriculums in Preschools in The Course of Early Childhood Education Part 1

次世代教育学部こども発達学科  
浅井拓久也

ASAI, Takuya  
Department of Child Development  
Faculty of Education for Future Generations

**Abstract** : The purpose of this study was to clarify what factors in students affect their understandings of curriculums in preschools. A stepwise multiple regression analysis and path analysis were performed with the exam score of curriculums in preschools as the dependent variable and students' interest in preschool curriculums, number of absence day, study time for the final exam, hours of part-time job per week, types of entrance exam and jobs they'd like to take as independent variables. The result showed that the interest in this subject, absent days, study time, the types of entrance exam were relevant to the score of preschool curriculums. The interests in curriculums was the strongest factor, and this factor was also associated with the score through the absence days and the time for exam. This suggests that it is not effective that students are, although they are not interested, present at the class of the curriculums in preschools, and study the subject for the exam. The types of job that students want to start after their graduation did not affect the score but students' interest in the curriculums. The kinds of entrance exam were slightly associated with the exam score in comparison with other significant variables. These findings indicate that proportional to students' understandings of the curriculums in preschools is their interest in the subject.

**Keywords** : curriculums in preschool, students' understanding, multiple regression analysis, path analysis

### I. 研究の目的と背景

本論文では、どのような要因が四年制大学大学生の保育課程論の理解に影響を及ぼしているかを明らかにすることを目的とする。要因には家庭的要因、教員側の要因など多様に考えられるが、ここでは学生の学習に関わる要因が保育課程論の理解に与える影響について取り上げる。

保育課程は、「保育所保育を包括的に捉え、保育所の理念、方針、子どもの発達過程や保育内容などを一貫性を持って描き出した保育所保育の憲章的なもの」と定義されている。(厚生労働省, 2008b) 保育課程は保育士養成校の必須科目として、保育実践の指針、研究対象としても重要なものである。

厚生労働省「指定保育士養成施設の指定及び運営の

基準について(厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知)」によると、保育課程は保育の内容・方法に関する科目として保育士養成校での教授が必須となっている。具体的には、「保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する。」「保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解する。」「計画、実践、省察・評価、改善の過程についてその全体構造を動的にとらえ、理解する。」の3つが目標として挙げられている。この目標を達成する内容として、「保育の計画と評価の基本」、「保育所における保育の計画」、「保育の計画の作成と展開」、「保育所における保育の評価」の4項目が指定されている。(厚生労働省, 2012)

また、保育所における保育の最低基準、指針とされる保育所保育指針解説書では保育課程について次のよ

うに指摘されている。(厚生労働省, 2008a)

子どもの最善の利益を第一義にして多様な機能を果たす保育所保育の根幹となる保育課程は、第2章に示される発達過程を踏まえ、第3章に示される保育のねらい及び内容等から編成され、保育所生活の全体を通して総合的に展開されるものです。保育の実施に当たっては、保育課程に基づき、子どもの発達や生活の状況に応じた具体的な指導計画やその他の計画を作成し、環境を通して保育することを基本とします。

現行の保育所保育指針では、保育課程は保育に関する計画の最上位に位置付けられ、保育所内の全職員が一貫した保育方針と全体計画に基づいて保育を行うための羅針盤とされている。対応が難しい子どもや多様化する保護者の要求、あるいは地域の子育て拠点としての保育所という要請に対して、保育士一人ではなく保育課程に基づいて保育士全員（保育所全体）で向き合っていくことが想定されている。

また、指導計画も保育課程に基づいて作成することが求められている。指導計画は当該保育所の保育目標や方針を具体化したものであるが、保育所全体の目標や方針に沿うものであることで保育所全体として一貫した保育が可能になる。このため、保育所保育指針では保育課程を十分にふまえた指導計画を作成することを明確にしている。保育所での保育の一貫性を担保するために保育課程は重要なものである。

保育士養成校での学生への教育、保育を実践する保育士（保育所）にとっての保育指針としての保育課程の重要性をふまえて、数多くの研究がなされてきた。これらの研究は、学生の教育に関する研究、保育課程そのものの研究、保育実践での活用に関する研究の3つの観点で整理できる。まず、学生の教育に関する研究では、西島・笠野（2015）は保育課程論を受講する学生に対してアンケート調査・分析を行っている。学生の保育に対する姿勢を明らかにするために、保育の根幹となる科目である保育課程論に対する学生の見解を分析対象として選択している。

また、保育課程そのものを研究対象としているものもある。小山（2015）は小学校、幼稚園、保育所の教育課程、保育課程を比較分析することでそれぞれの特徴を明らかにしている。余公（2011）は、保育所保育指針の歴史的変遷を通じて現行保育所保育指針の保育課程について考察を行っている。その他、清水他

（2011）、庭野（2011）や宍戸（2010）も保育課程そのものを研究対象とした研究を行っている。

保育課程を保育実践の場で適切に運用するための研究もなされている。堀田他（2013）は3,4歳児が描いた人物画を事例として保育課程に基づく指導計画の作り方について、渡邊・横松（2010, 2011, 2012）は保育所でのアクション・リサーチを通じて保育課程と自己評価方法のあり方、あるいは保育課程に基づく保育所の運営（マネジメント）について研究している。

以上のように、保育課程は保育士養成校の指定科目、保育士（保育所）の保育実践の指針、研究対象として重要視されてきた。このような背景をふまえて、本論文では保育士養成課程所属の大学生の保育課程に対する理解にどのような要因が影響を与えているかに焦点を当てる。大学生の理解を対象とするのは、保育課程論は保育士養成課程で学ぶ大学生の必須科目であること、大学生は将来の保育士であるから保育課程を理解できているか否かは重要な課題だからである。要因に関しては、学生の家庭的な要因、教える側である教員の要因、学生を取り巻く学習に関する要因がありえるが、ここでは学生の学習に関する要因を取り上げる。

これまでの先行研究では、保育課程を学ぶ大学生を調査対象にしたものは限られていた。しかし、学生が保育課程を理解できているか否かは保育士養成校の教育の観点から重要であろう。どのような要因が学生の理解に影響を及ぼしているかを明らかにすることで、学生教育の効果を上げることが可能となる。また、保育課程はどうあるべきかという保育課程そのものの研究や、保育課程の作り方や指導計画との関係など保育実践のなかでの保育課程の運用に関する先行研究がある一方で、学生の理解に与える要因という学生の学びの過程に関する研究はなされていない。保育課程は学ばれて、理解されてはじめて意味をもつものであるから、学生の保育課程に対する理解にどのような要因が影響を与えるのかに関する研究が必要になろう。このように保育実践の場で重要な保育課程に関して、学生の理解に影響を与える要因を考えることは、保育士養成校の学生教育への示唆を得ることになるのみならず、学生が将来の保育士であることを鑑みれば保育の質の向上につながるものと思われる。

## II. 研究方法

### 1. 調査・分析対象

首都圏内の保育士養成課程をもつ四年制大学A大学に在籍する1年生118名（男性19名、女性99名）を対象に質問紙による調査を行った。回答に欠損があるもの、調査実施時に調査対象者が欠席のため回答を得られなかったものを除く112名（男性17名、女性95名）の回答を分析対象とした。

### 2. 調査時期・方法と倫理的配慮

本調査は2016年1月、保育課程論の試験後に実施された。

調査対象者が回答を記入後、分析者が直接回収を行った。分析をするうえで回答者の保育課程論の試験の得点が必要となるため、回答は記名・自記式で行った。本論文では、学生の保育課程論の理解を試験の得点を用いて分析するため、2016年2月に授業担当者から調査対象者の試験の得点を郵送で受け取り、分析者が調査対象者の回答と得点を対応させてまとめた。調査対象者ごとに回答と得点をエクセルにまとめた。

倫理的配慮として、調査の目的と内容、授業担当者（成績評価者）と本調査の分析者は異なること、回収した質問紙の回答は授業担当者はじめ分析者以外には公開されないこと、回答を拒否することも可能であること、回答は学術的な目的以外に利用されないこと、調査分析後は回収した質問紙を適切に破棄することなどを、調査実施前に授業担当者が調査対象者に対して口頭及びフェイスシートにて伝達した。同意が得られた回答のみ分析対象として使用した。

### 3. 調査内容

本調査では、質問紙による回答と、調査対象者の保育課程論の試験の得点を収集した。質問紙はフェイスシートと質問項目からなる。フェイスシートでは名前、性別、学年、所属学科等の基本的な属性を質問した。

質問項目は、保育課程論への関心、欠席日数、保育課程論の試験勉強時間、週当たりのアルバイト時間、入試区分、現時点での希望進路に関して質問した。

保育課程論への関心について、保育課程論への関心度合いを10件法で質問した。授業の形態、授業の内容、使用した教科書は以下の通りである。授業では初回を除き、各回で前回の授業の振り返りを行ってから新たな内容の講義を行った。講義が終了する15分前に

は、その日の授業の振り返りとして授業のまとめを行った。適宜、グループワーク、ディスカッション、映像を取り入れた。

授業の内容は以下の通りである。

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 保育課程とは
- 第3回 保育課程の基本（1）
- 第4回 保育課程の基本（2）
- 第5回 指導計画の原理
- 第6回 指導計画の作成方法
- 第7回 指導計画の評価
- 第8回 保育評価の方法（1）
- 第9回 保育評価の方法（2）
- 第10回 保育課程を比較する
- 第11回 保育課程と教育課程の比較
- 第12回 保育課程を調べ紹介しよう（1）
- 第13回 保育課程を調べ紹介しよう（2）
- 第14回 保育所の役割と機能
- 第15回 保育士の専門性

使用した教科書は北野幸子編著『新保育ライブラリ 保育課程論』（北大路書房、2011年）である。

欠席日数について、授業開始10分以内の遅刻は出席とした。調査対象者の回答と授業担当者の出欠情報を照合し、不一致の場合は授業担当者の情報に分析者が置き換えた。

保育課程論のための試験勉強時間は、10分単位の回答とした。

週当たりのアルバイト時間は1時間単位の回答とした。調査対象者の事前調査で調査対象者のほとんどが部活やサークルには所属していないことが明らかであったため、本調査ではアルバイト時間を調査項目として設定した。

入試区分は、英語や国語などの筆記試験による一般入試とAO入試、推薦入試、特別入試などの筆記試験のない入試に分けた。

現時点で希望している進路（将来の就職先）について、保育課程は保育所で作成することが求められることから、保育課程の原理は教育課程と通底するものがあることから、希望進路は保育所・幼稚園・認定子ども園かそれ以外かに分けた。

学生の保育課程の理解を表す尺度として試験の得点を用いるため、試験後に試験の得点を得た。保育課程論の試験は全50問、1問2点の100点満点で採点され

た。試験問題はすべて選択式（4肢択一）であった。試験時間は60分であった。

分析ソフトはSAS 9.4とIBM Amos v.24を使用した。

### Ⅲ. 結果

学生の学習に関する要因と保育課程論の理解の関係を検討するため、学生の保育課程への関心、欠席日数、試験勉強時間、週当たりのアルバイト時間、入試区分、希望進路を独立変数、保育課程論の試験の得点を従属変数とする重回帰分析を行った。入試区分と希望進路はダミー変数を作成し、入試区分は一般入試以外、希望する進路は保育所・幼稚園・認定子ども園以外を基準カテゴリーとして試験の得点を予測した。

表1は4つの独立変数の平均値(M)、標準偏差(SD)、最大値、最小値、表2は2つのダミー変数の回答頻度と回答別の試験得点の平均値と標準偏差を示したものである。従属変数(試験の得点)は、平均値65.9、標準偏差26.7、最大値98、最小値4であった。

表1 独立変数の平均値、標準偏差、最大値、最小値 (N=112)

	保育課程への関心	欠席日数	試験勉強時間(分)	週当たりのアルバイト時間(時間)
平均値	6.0	0.9	90.0	12.1
標準偏差	2.7	1.5	50.7	5.4
最小値	1.0	0.0	0.0	0.0
最大値	10.0	5.0	180.0	24.0

表2 独立変数(ダミー変数)頻度と変数別の得点の平均値、標準偏差 (N=112)

	入試区分		希望進路	
	一般入試	その他	幼保認定	その他
頻度	64	48	95	17
(%)	(57.1)	(42.9)	(84.8)	(15.2)
平均値	81.3	45.3	71.1	36.7
標準偏差	13.9	25.7	23.2	26.5

表1と表2に示した6つの独立変数を用いてステップワイズ法による重回帰分析を行った結果を表3として整理した。週当たりのアルバイト時間と希望進路は除去され、保育課程への関心、欠席日数、試験勉強時間、入試区分(一般入試による入学)によって保育課程論の試験の得点を説明する回帰式が得られた。決定係数(調整済み決定係数)は.857(.851)であり、有意であった( $F(4, 107)=159.913, p<.001$ )。残差分析においても問題は見られなかった。許容度(VIF)では、保育課程への関心は.436(2.295)、欠席日数

は.707(1.414)、試験勉強時間は.424(2.356)、入試区分は.549(1.821)となっており多重共線性は疑われなかった。

標準偏回帰係数から、保育課程の試験得点に最も影響を与えているのは学生の保育課程への関心であった。欠席日数と試験勉強時間の影響はほぼ同程度であった。入試区分(一般入試か否か)は他の変数と比べると試験の得点に大きな影響を及ぼしていなかった。

次に、独立変数間の関係を明らかにするため、許容度を参考にして保育課程への関心が欠席日数、試験勉強時間を通じて試験の得点に間接的に影響を与えるモデルを作成した。(図1) モデルの適合度は、 $X^2(12)=107.85(p<.01)$ , GFI=.92, AGFI=.87, CFI=.92, RMSEA=.086と十分でない値もあるが許容できる範囲であった。本モデルによって、試験の得点は81%説明できた。なお、図1のパス図では誤差変数を省略した。

図1によると、保育課程への関心には入学前の学生の希望進路(保育所・幼稚園・認定子ども園)から正のパスがあり説明率は17%であった。欠席日数には保育課程への関心から負のパス、週当たりのアルバイト時間から正のパスが示され説明率は24%であった。試験勉強時間には保育課程への関心から正のパス、週当たりのアルバイト時間から負のパスがあり説明率は48%であった。保育課程の関心から試験勉強時間への標準化推定値が最も大きかった。試験の得点には保育課程への関心、入試区分(一般入試により入学)から正のパス、欠席日数から負のパスが示され、説明率は81%であった。

### Ⅳ. 考察

学生の理解を試験の得点で測定し、学生の学習に関する各要因との関係について重回帰分析を行った結果、保育課程への関心が試験の得点に最も影響を与えていた。試験の得点に対する保育課程への関心と授業の欠席日数、試験勉強時間の影響度と比べると、単に授業に参加し、試験のための勉強をすればよいというものではないと言えよう。

これは、独立変数間の関係を表したモデルのパス係数からも支持される。(図1) 欠席日数と試験勉強時間が試験の得点に及ぼす影響より、保育課程への関心が欠席日数と試験勉強時間に及ぼす影響のほうが強いことが確認された。学ぶ対象に関心をもつことができ

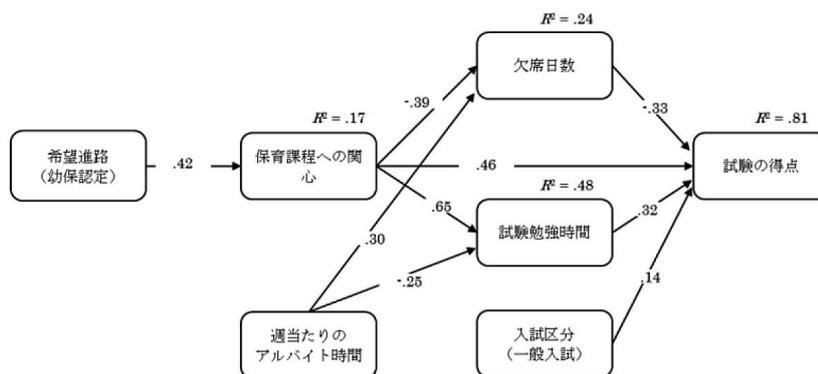
表3 ステップワイズ法に基づく試験の得点の予測結果

従属変数：試験の得点	回帰係数		t	βの95%CI	
	非標準化(β)	β		下限	上限
定数	29.275		9.440	23.129	35.422
保育課程への関心	3.935***	.401***	7.225	2.855	5.015
欠席日数	-5.235***	-.298***	-6.850	-6.749	-3.720
試験勉強時間	.154***	.293***	5.221	.096	.213
入試区分（一般入試）	6.611*	.123*	2.497	1.363	11.860
R <sup>2</sup> （調整済みR <sup>2</sup> ）	.857 (.851)				
F(4, 107)	159.913***				

除かれた変数：週当たりのアルバイト時間、希望進路

除去基準：p > .05

\*p < .05, \*\*\*p < .001



GFI= .92, AGFI= .87, CFI= .92, RMSEA= .086

図1 試験得点に対する規定要因の因果関係モデル

れば授業参加への意欲も高まることから、学生が保育課程の授業内容に関心をもつほど学生は授業を欠席しなくなると考えられる。教員による学生の出欠管理の厳格化や管理方法の検討に時間を割くより、授業を通じて保育課程に対する学生の関心を高めることで学生の主体的な出席を促すほうが学生の保育課程の理解も高まるであろう。

また、保育課程への関心は試験勉強時間に強い影響を及ぼしていた。モデル内のパス係数の中で最も大きく、保育課程への関心と週当たりのアルバイト時間で試験勉強時間の約50%を説明できることから、学生の関心を高め、関心を試験まで維持することが重要であることが確認できる。学習者が学習対象に関心をもつことの効果は先行研究でも指摘されているが、保育士養成大学の学生を対象とした保育課程論についても同様であった。(市川, 2001)

保育課程論では保育課程の作成や指導案の作成方法を教授するが、多くの学生は保育経験がない。このため、こうした内容は手続き論を聞くだけと感じやすく、実際に保育課程を作成する授業であっても保育体験のない学生にとっては自分の問題として考えること

や内容を考えることが難しく単なる作業に終始することが多い。このため、なぜ保育課程が必要なのか、なぜそのように作成するのかという意義を伝えることや保育体験のない学生が関心をもつような授業や教材を工夫することが学習意欲を高め、試験勉強に向かう動機づけになると考えられる。進級や単位取得、公立幼保試験対策のために学習するというような強制的な指導をするのではなく、学生が保育課程に関心をもつような授業や教材を工夫の方が学習の効果が高まると言えよう。

保育課程への関心に影響を及ぼす要因として、将来の進路（保育所・幼稚園・認定こども園）が一定の影響を及ぼしていた。希望進路は試験の得点に直接的な影響を与えていないが、試験の得点に直接・間接的に影響を及ぼす保育課程への関心に影響を与えていることは注目に値する。保育所・幼稚園・認定子ども園への就職を希望している学生にとって就職先で必要な技術や知識は関心事であろう。保育士になれば保育課程や指導計画は自分で作成できるようになること、入学前に学習している内容でもないことが学生の授業への関心につながっていると思われる。学生を教育する観点

からは、学生の希望進路が関心に影響を与えていることから、希望進路別のクラス分けの有効性が示唆される。現実的な運用の難しさはあるものの、学生の希望就職先が保育所・幼稚園・認定子ども園か否かを学年ごとに把握してクラス編成に反映していくことも学生の関心を維持・向上するためには必要であろう。

入試区分は試験の得点に影響を与えていたが、他の変数と比べると大きなものではなかった。一般入試のための試験勉強で習得した試験対策法や方略が試験得点の向上に貢献していた可能性はあるが、入学後の授業にて保育課程論の内容を理解していないと得点を伸ばすことは難しいことがわかる。入試区分と入学後の試験の得点の関係については多様な議論があるが(横山, 2016・池田, 2009), 本研究と関係する先行研究では入試区分と入学後の保育者養成課程に必要な科目との関係を検討したものはないため, 本研究が明らかにした結果は今後の研究に生かされるものと考えられる。

週当たりのアルバイト時間は試験の得点に直接的な影響を及ぼしてはなかった。昨今の学生を取り巻く経済状況は厳しいため、学生にとってアルバイトの時間は交際費や遊興費というより生活維持のために欠かせない。(全国大学生生活協同組合連合会, 2015) アルバイトに時間を使うことがただちに試験の得点に影響を及ぼすわけではないことは、アルバイトで生計を維持する学生にとっては重要な結果であろう。しかし、アルバイトの時間は欠席日数や試験勉強時間に影響を与えることで試験の得点に影響を及ぼしている。アルバイトは学生にとっては経済的な観点および社会人としての基礎を育むという観点でも重要ではあるが、授業参加や試験勉強時間の確保が難しくなるような取り組み方は回避すべきと言えよう。

## V. まとめと今後の課題

本研究は、保育課程への学生の理解に学生の学習に関するどのような要因が影響を及ぼしているかについて検討することを目的とした。学生の保育課程の理解に対して、保育課程への関心、授業の欠席日数、試験勉強時間、入試区分(一般入試による合格)が影響を及ぼす要因であることが明らかとなった。

保育課程への関心が最も試験の得点に影響を及ぼしていたが、欠席日数、試験勉強時間にも影響を及ぼしていた。このため、保育課程に対する十分な関心をもたないまま授業に出席し続けることや試験勉強をする

ことは必ずしも効果的ではないことが示唆された。学生の希望する進路が保育所・幼稚園・認定子ども園か否かは、試験の得点に直接的な影響はないものの、保育課程への関心に影響を与えていた。一般入試による入学か否かという入試区分も試験の得点に影響を与えてはいたが、他の変数と比べると大きなものではなかった。以上から、学生の保育課程に対する理解を高めるためには、学生が希望する進路を把握し、保育課程への関心を高めることが重要であることが明らかとなった。

本研究の今後の課題として、首都圏の保育士養成課程の大学に在籍する大学生を調査分析対象としたため、研究結果の一般化には留意しなければならない。地域横断的な調査や保育士養成課程をもつ短期大学や専門学校との比較が必要となろう。

また、先行研究ではなされてこなかった保育士養成課程の科目への学生の理解に与える要因について検討してきたが、本論で取り上げた学生の学習に関する要因に加えて家庭的な要因、教員の要因も含めた詳細な分析が必要になろう。とりわけ学生の家庭的な要因については学生を取り巻く経済状況や家族関係の多様化を鑑みれば、こうした要因が及ぼす影響も含めて分析することが必要である。

保育課程に対する学生の関心とその理解に与える影響が大きいという結果をふまれば、学生の関心を高めるような授業や教材の検討が必要になろう。これまでの保育課程や指導計画の作成方法や保育課程の理念型を追究する研究をふまえて、どのような教授方法や教材が学生の関心を高めるのかという研究が本研究の次の課題となるであろう。

## 【引用・参考文献】

- 堀田千絵・花咲宣子・堀田伊久子, 「保育・教育課程に基づく年間指導計画の形成的評価とアセスメントの重要性: 3歳から4歳における人物画を題材にした指導計画の創案と個別の指導計画の活用」, 『関西福祉科学大学紀要』, 17, pp.15-31.
- 市川伸一 (2001), 『学ぶ意欲の心理学』, PHP研究所.
- 池田文人 (2009), 「入試区分による入学後の学業成績の優劣の検証」, 『大学入試研究ジャーナル』, 19, pp.95-99.
- 厚生労働省編 (2008a), 『保育所保育指針解説書』, フレーベル館.
- 厚生労働省 (2008b), 「改定保育所保育指針 Q & A 50」.

- 厚生労働省 (2012), 「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について (厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知) 抜粋」.
- 小山優子 (2015), 「保幼小の教育保育課程と指導計画の比較分析: 小学校の教育課程と幼保の保育内容の変遷から」, 『しまね地域共生センター紀要』, 2, pp.33-43.
- 庭野晃子 (2011), 「「保育課程」の内容に関する一考察: 保育所保育指針 (2008) に対応した教科書分析 (1)」, 『研究紀要』, 25, pp.39-51.
- 西島 (黒田) 宣代・笠野恵子 (2015), 「保育学への姿勢: 「保育方法論」ならびに「保育課程論」に見る学生のアンケートシート分析結果」, 『中九州短期大学論叢』, 38 (1), pp.45-58.
- 清水益治・小椋たみ子・鶴宏史・南憲治 (2011), 「保育所における保育課程の編成に関する研究」, 『帝塚山大学現代生活学部紀要』, 7, pp.117-132.
- 宍戸健夫 (2010), 「保育カリキュラム (保育課程) について考える - 保育カリキュラムの構想」, 『保育の研究』, 23, pp.1-8.
- 渡邊祐三・横松友義 (2010), 「実効のある保育目標及び保育全体の理論的枠組みを前提にした保育課程編成手順の開発: 私立御南保育園でのアクション・リサーチをとおして」, 『カリキュラム研究』, 19, pp.85-98.
- 渡邊祐三・横松友義 (2012), 「保育課程に基づく保育実践の自己評価観点明確化手順の開発: 私立御南保育園でのアクション・リサーチ」, 『教育実践学論集』, 13, pp.137-146.
- 横松友義・渡邊祐三・森英子・伊勢慎・豊池利江・齋藤健司 (2011), 「保育目標のとらえ方と保育実践の両者を質的に向上させる保育実践開発に関する考察」, 『岡山大学大学院教育学研究科研究集録』, 147, pp.125-133.
- 余公敏子 (2011), 「保育所保育指針の変遷と保育課程に関する考察」, 『飛梅論集』, 11, pp.41-57.
- 横山悟 (2016), 「入学試験区分による経時的データに基づいた大学初年次学生の英語力の分析」, 『千葉科学大学紀要』, 9, pp.9-16.
- 全国大学生生活協同組合連合会 (2015) 『学生生活実態調査報告書 CAMPUS LIFE DATA2015』.